



今月の話題

- UJNR 地震調査専門部会第10回合同部会に出席
- 東北研修旅行レポート
- 訃報
- 東北研修旅行の写真

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

UJNR 地震調査専門部会第10回合同部会に出席 - 仙台 -

国際地震工学センター 林田 拓己、芝崎 文一郎

平成26年10月14日から16日まで、UJNR(天然資源の開発利用に関する日米会議)地震調査専門部会第10回合同部会に出席しました。UJNRの合同部会は日本と米国で2年毎に交互に開催され、今回は宮城県仙台市で開催されました。初めの2日間は、地震学や地震・津波ハザード評価に関する最新の研究成果や進行中の研究プロジェクトに関する発表(計7セッション、48発表)が行われ、活発な議論が交わされました。



巡検の様子(旧中浜小学校にて)

芝崎上席研究員は「東北日本島弧におけるレオロジー構造と2011年東北地方太平洋沖地震後の粘弾性変形」、林田研究員は「連続微動観測記録を用いた港湾域直下の地震波速度構造調査」というタイトルで口頭発表を行いました。

セッションの最後には、地震に関連した研究分野における日米間の科学的協力を今後も継続して行う旨の決議が採択されました。最終日には仙台湾の沿岸部に沿って巡検が実施され、東日本大震災で津波被害を受けた地域や津波による地形の変化などを視察しました。

セッションの最後には、地震に関連した研究分野における日米間の科学的協力を今後も継続して行う旨の決議が採択されました。最終日には仙台湾の沿岸部に沿って巡検が実施され、東日本大震災で津波被害を受けた地域や津波による地形の変化などを視察しました。

東北研修旅行レポート

(1) Ms. Baigalimaa GANBAT(モンゴル、地震学コース)

私たちは研修旅行で宮城県と新潟県を訪問しました。研修旅行の目的は2011年の東日本大震災と2004年の新潟県中越地震から教訓を学ぶことにありました。東日本大震災については、講義やニュース、ビデオなどで事前に聞いて知っていました。



それにも関わらず、この研修旅行で女川地区や名取地区の現状を目の当たりにし、津波や地震がもたらした被害や恐ろしさをより強く再認識しました。宮城復興局では、復興再建の状況を聞くことができました。

長岡市の長岡震災アーカイブセンターとやまこし復興交流館では、iPadマップを使って中越地震の状況を確認し

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

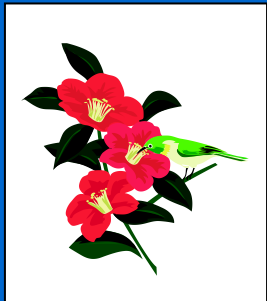
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IJSEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



たり、実際の映像を見たりすることで災害について学びました。山古志村は震災後に豪雪と地滑りで重大な被害を受けました。土砂は川の流れを堰き止め、それにより住宅は浸水したのです。聡明な人々や次世代の人々が災害について学んでいくことがどこの国においても非常に重要です。

この研修旅行を通して、地震・津波災害、復旧、復興からの経験を学びました。また、迅速な対応、日本の政府間の協力、そして地震多発地域の免震建物の新技術について学ぶことが出来ました。

*研修旅行期間は11月3日(月)ー7日(金)に実施

(2) Mr. Johnlery Pino DEXIMO (フィリピン、地震学コース)

11月3日～7日にかけて、私たち地震学コースと地震工学コースの研修生は、宮城県と新潟県の2か所の異なる地域を訪問研修しました。宮城県は女川町、名取市、東北大学を、新潟県は長岡市と山古志地区を訪問しました。研修目的は、2011年に起きた東日本大震災の巨大津波によって流されたり倒れたりした建物や住宅の被災からの復旧・復興対策について学ぶことでした。一方、2004年に新潟県山間部で起きた新潟県中越地震では住宅やインフラの被害のほとんどは、地滑りと土石流によるものでした。



こうした自然災害にどう対応し、どう被害を少なくするかを学ぶことは非常に有益で特筆すべき経験でした。被災地の復興には、適切な土地利用計画、建築物の強化そして

その復旧技術を考慮することが重要です。

今回の研修旅行を通して、持続可能性という概念が、地震や津波、またそれに関連した危険要因から身を守り、地域の安全性を高めていくのに重要であることを学びました。もう一つ学んだことは、災害軽減計画や決定を行う際、科学的理論だけでなく、私たちの実際の経験に基づく必要があることを学びました。

(3) Mr. Nelson Alejandro QUINTANILLA PINTO (エルサルバドル、地震工学コース)

新潟県と宮城県への研修旅行は、大変興味深いものでした。宮城県では、2011年の地震と津波以降、復興の現状がどのようなもので、彼らが迅速に行動するためにいかに取り組んだか、そして、緊急的な対応と復旧、復興を管理するために地域的な計画を備えることが重要であることを学びました。また、この種の災害において、高速道路が重要であることも学びました。高速道路は、災害の影響を受けた都市間での連絡手段として非常に重要な役割を果たします。もし、高速道路網が遮断された場合には、被災地への必要な支援を送るために、その修復を優先すべきであることを学びました。



私たちは、また、2004年の中越地震によって被災した長岡市の人々から教訓を得ました。更に、普段の生活を取り戻すために町を復興した人々の勇気に深い感銘を受けました。彼らは、見習うべき模範と言えます。

私は、この知識を共有してくれた人々に、感謝します。



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

(4) Mr. Harish Chandra LAMICHHANE (ネパール、地震工学コース)

最初に、訪問先として適切な場所を調整して頂いたIISEEに感謝致します。

私たちは、宮城県と新潟県を訪問しました。地震工学と地震学コース研修生全員が参加しました。宮城県では、女川町と名取市において、2011年東北地方太平洋沖地震により壊滅的な被害を被った地域を訪れました。また、宮城復興局と東北地方整備局を訪問し、災害対策に関する講義から多くを学びました。弾丸列車(新幹線)による旅は、忘れがたいものとなりました。



新潟県では、2004年新潟県中越地震による被害の一端を見ることができました。地震で起こった地滑りの跡地も訪れました。また、地震時や地震後の山古志村の地域のまともは、大いに学ぶべき教訓と言えるものでした。日本社会の伝統と文化を知る良い機会となりました。家屋の迅速な修復は、他の国の模範となるものです。山古志地方では、養鯉場とアラパカ牧場も訪問しました。私は今回の見学訪問に深く感銘を受けました。私たちの国でもこのような活動を取り入れることが可能だと思います。

(5) Mr. Urip Setiyono (インドネシア、津波防災コース)

誰も災害にあいたくありません。日本の人々も同じです。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及び津波は、人々にとって、特に東北地方沿岸に住む人々にとって、悪夢でした。巨大津波は、津波対策として人々を守るために国が設置した高田松原の海岸林や、田老地区、釜石港などの防波堤を破壊しました。それでも日本は、そうした困難に屈することなく向き合ってきました。



研修旅行で私たちは、3年ほど前に始まった被災地域の復旧の様子を視察し、その大きな成果を見ることが出来ました。復興を加速するために建設された陸前高田市の3キロにわたるベルトコンベアは、日本が悲しみを大きな前向きエネルギーに転換させ、今後の課題により革新的に且つ強固に取り組んでいることを端的に示しています。

こうした取り組みが全ての人々が学ぶべき教訓となることを期待しています。私たちは学び続けなければいけません。災害は決して止まってはくれないからです。

* 研修旅行期間は11月4(火)－8(土)に実施

訃報: 岸田 英明氏

2014年11月16日、東京工業大学名誉教授岸田英明氏をご逝去されました。

岸田先生は、地盤工学がご専門で、1964年－1965年の間はIISEEの研究者として奉職されていました。岸田先生は、1970年代から1990年代にかけて、カリキュラム委員会(現:カリキュラム部会)の委員も務めて下さいました。ご家族の皆様、IISEE一同、心からお悔やみ申し上げます。

東北研修旅行の写真

